

あなたの地域の学校図書館は コロナ禍でどんな変化がありましたか？

(アンケートの回答より)

❖ 学校図書館のコロナ禍における変化

変化があったという回答は大きく3つに分けられる

- ・ 配置…人数制限による、机やいすの数、ソファの位置などの変更。
- ・ 対策…手指、本、机などの消毒。換気、アクリル板の設置。
- ・ 時間…昼休みや放課後などの学年やクラスごとの利用時間の割り当て。図書館での閲覧禁止。長期休業中の利用中止。

図書館の利用、本の貸し出しなどについて

利用制限等による貸し出し冊数や利用者の減少。また、行事の中止、閉館なども挙げられた。しかし、以下の工夫により貸し出しが増えたという回答もあった。また、徐々に緩和、利用の増加の傾向がみられるという学校もあった。

- ・ 学級文庫への貸し出し冊数を増やす。
- ・ 授業に関連のある本を司書が選びクラスに届ける。
- ・ 子どもたちに事前に貸し出しリストを配布し、そこから選書してもらう。
- ・ 個人カードをやめて、バーコード台帳を利用。

貸し出し冊数が増えた回答が多かったもの

- ・ 週1回必ず本を借りることにした。
- ・ 1人当たり貸し出し冊数の増加や貸し出し期間の延長。

授業での利用について

- ・ 授業での利用回数や時間が減少した。
- ・ 資料は、各クラスに届ける。
- ・ 学校司書が図書館利用や資料提供の提案をしたが、学校側に断われた。
- ・ 以前より、学校側が学校司書に頼るようになった。

1人1台端末(タブレット)の導入による図書館利用の変化(コロナ禍のため前倒しで導入された)

- ・ 本で調べ、タブレットでまとめる。
- ・ 高学年はタブレットで調べることが多くなり、本を使う機会が少なくなった。低学年は、端末の使い方の習得に差が大きく、書籍を利用している。
- ・ 調べ学習用の資料の貸し出しが減った。



ボランティア・PTAの活動にも変化がありました

- ・ 感染状況によりボランティア活動を停止した。その後、回数を減らして再開したところもある。
- ・ 読み聞かせボランティアの体制を、2人から1人に減らした。
- ・ 投影機・電子黒板・ビデオ・テレビなどを活用した。
- ・ 読み聞かせ後の反省会をなくしたことで、学校司書とボランティアが直接話す機会が減った。
- ・ ボランティア(特に高齢者)の人数が減った。
- ・ 図書館ボランティアの作業は人数に配慮し、短時間にした。

公共図書館との関係も少し変化しました

- ・ 教室での調べ学習のため、据え置き資料を市立図書館から借りる回数が増えた。(宇都宮市)
- ・ 学校図書館司書研修は中止の時もあったが、オンラインでの研修も導入された。(宇都宮市は、2022年度に学校教育課主催4回、図書館主催4回の研修を実施)
- ・ 市立図書館による学校図書館訪問が停止。年2回の市立図書館と学校図書館の合同研修は継続。(下野市)
- ・ 巡回図書(1週間に30冊)は学校図書館ではなく該当学年のクラスに順番で配置。(宇都宮市)
- ・ 1人1台の端末機の導入により、調べ学習用の資料の貸し出しに複本をお願いしなくてもよくなり、団体貸出の冊数に余裕ができ、読み物も借りられるようになった。

工夫した学校の実例や問題点をいくつかご紹介します

- ・ 密を避けるためイベントの回数は減り、読書週間の貸し出し数は、例年と比べ伸び悩むこともあったが、司書教諭と相談しながら工夫を重ねた。
- ・ 対面での読み聞かせが難しいため、給食時の放送で、学校司書が本を読んでいる。
- ・ 学校図書館の利用が制限される分、学級文庫を充実させた。
- ・ 読書集会以外でできることを増やして実施した。
- ・ ビブリオバトルをカード形式にした。
- ・ 図書委員が活躍できる、新たな企画を取り入れ、大好評だった。「当たり本をさがせ!」「図書委員体験」「本の福袋」など。
- ・ 学年ごとの図書館利用のため、昼休みなど「図書室を居場所」とする生徒の居場所がなくなり、心細い思いをしている生徒もいる。その子どもたちの心のケアも考える必要がある。
- ・ ウィズコロナの時代になり、学校の状況により対応はかなり違うと思うが、学校司書の研修も回数などが制限され、情報交換が難しくなっている。